

建設業向けデジタルプラットフォームを提供するMCデータプラスの社長に復帰した。労務・安全衛生管理の書類作成や施工管理業務のデジタル化を支援。担い手不足や働き方改革などの課題解決とともに、魅力ある業界の実現に貢献する。

◇ — 就任の抱負を。

「1年9カ月ぶりに就任し、身の引き締まる思いだ。本年度から建設業に時間外労働上限規制が全面適用された節目のタイミングとも重なり、大きな責任を感じる。市場は堅調に推移する一方、担い手が大幅に減っているのが課題だ。引き続き『グリーンサイト』や『ワークサイト』などの提供を通じ、現場の生産性を高めより良い建築物を造ってもらえるよう貢献したい」

— 社長に再び就任した。

「前回の社長退任後、三菱商事のデジタル事業部長に就任し、当社長も兼務した。三菱商事では国内外で展開す

MCデータプラス

いいだ まさお
飯田 正生氏

デジタルで働き方改革貢献

る幅広い業種や業態のデジタル化を進めてきた。その経験から建設業はデジタル化が難しい領域だからこそやりがいも大きいことを実感した。これまでの経験が生かせると思う」

— 注力する事業は。



新社長

1996年一橋大学商学部卒、三菱商事入社。2018年4月MCデータプラス経営管理部長、同9月社長、22年7月三菱商事デジタル事業部長兼MCデータプラス会長などを経て24年4月から現職。趣味はランニング。座右の銘は実体験に基づき「成功は運。失敗は実力」。東京都出身、51歳。

「直近では現場の労務・安全衛生管理・施工管理を支援できるよう、1月にKY（危険予知）支援機能を加えたワークサイトの新サービスをリリースした。作業員名簿と現場の入退場履歴からKY活動参加者を確認し、危険ポイント対応策の作成などをスマートフォンでも対応できるよう機能拡充した。今後はグリーンサイトやワークサイトなどの利用を通じ集積した技能者約190万人分の膨大なデータも活用し、付加価値の高いサービスを展開したい」

— サービスの方向性は。

「グリーンサイトやワークサイトなどの利用者増加を目指す。そのため顧客から求められる機能を反映し、社会の変化に遅れることなくどんどん広げ進化させる。変化が激しいデジタル業界ではわれわれと同じような建設業向けサービスプロバイダーが急激に増えている。APIを通じ技能者データを提供し、顧客がより便利に利用できるようにしたい。これにより個別のサービスの利用する度に入力しなければならぬIDやパスワードの運用をできるだけ簡素化する」

— 当面の目標は。

「デジタル化を通じ建設ならではの匠（たくみ）の技を再現性ある仕組みに変えるという考え方の下、業界の多くの課題解決に貢献できることを喜びと感じている。定量的な目標はあえて設定していない。顧客の要望や課題にしっかり応えていけば結果は必ず付いてくる。学生にデジタルを使った建設業の魅力を伝える取り組みにも注力したい」。

（4月1日就任）

